

今年の夏は異常気象が続いています。7月には西日本豪雨のために多くの被害が発生し、その後の台風12号は日本列島を東から西へ横断する異例のコースをとりました。また、7月下旬から8月にかけて異常高温が各地で記録され、私の住んでいる名古屋でも観測史上初の40℃を記録しました。このような度重なる異常気象は地球温暖化が原因ともいわれており、今後も増え続けるのか気になるところです。ともかく本誌が皆様のお手元に届く9月には、気候が安定することを切に願っています。

さて、今月号の特集テーマは青木茂樹先生の企画による「画像診断の別の貌—定量化と正常値のまとめ、適正使用と被曝」です。少し難解なタイトルですが、今まで本誌において触れられることがなかった重要なテーマを多く含んでいます。画像検査は患者さんや私たち医療従事者にとって診断を進めるにあたり、なくてはならない重要な検査です。しかし、画像検査の負の側面として放射線被曝、医療費の高騰などの問題が挙げられます。特にわが国では他国に比べ、CTやMRIなどの診断装置が広く普及しており、検査費用も相対的に安価なため、安易に検査が行われる傾向があり、その結果、画像診断による放射線被曝が飛び抜けて多いことが問題になっています。この特集では、画像診断の別の貌というテーマに基づき、はじめに各種画像検査の標準化・定量化について述べられ、さらに医療費や被曝の観点から適正使用について記載されています。画像診断の利点と欠点についていかにバランスをとるかについてあらためて考えるよい機会になると思います。

Nomadeでは植山和正先生が「中国との交流から見た日本」というテーマで寄稿されています。長年にわたる中国各地の疫学調査や医療協力の経験から、中国の医療事情の変化や日本の医療の問題点を指摘され、読み応えのあるエッセイとなっています。

最後に私事になりますが、今年の11月22日、23日に名古屋駅に近接するウインクあいちを会場に、第53回日本脊髄障害医学会を開催させていただきます。この会は整形外科、脳神経外科、神経内科、泌尿器科、リハビリテーション科など複数の科の医師やメディカルスタッフにご参加をいただき、脊髄障害について議論していただく学際的な会です。今回のテーマは「脊髄損傷の急性期治療を見直す」です。脊髄損傷については本誌の特集においても何度か取り上げられておりますが、本学会への皆様のご参加をお待ちしております。

(高安正和)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

徳橋泰明 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 31 No. 9
(2018年9月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価 (本体2,300円+税)

(配送料別)

年ぎめ予約購読料30,700円+税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2018,
Printed in Japan

JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。